

第31回

神無一族の氾濫

担当 神無七郎

今回の「氾濫」のテーマは「非標準駒数のフェアリー作品」です。使用する駒の種類は通常通りで、その枚数が標準より多かつたり少なかつたりする作品を集めました。ただし、①のみはいつもの方針で通常のばか詰となつていきます。

普通の詰将棋では、駒数の制限は悩みの種であると同時に、便利な道具でもあります。長編趣向作などを作っていると「もっと駒があつたらなあ」と思うことはしょっちゅうですし、逆に駒数の制限を使って合駒を限定するテクニクも頻繁に使います。もし、この制限がなければどうなるでしょう？例えば駒数が少ない世界では裸玉の創作が天国になり、駒数が多い世界では

煙詰の創作が地獄になりそうですね。

ただ、近年では盤面に合駒制限のためだけの駒（花駒）を置く代わりに、受方の持駒を制限し、本質的でない配置を省く出題形式も割と見られるようになりました。普通の詰将棋の世界ですらそうなのですから、フェアリーでこれをやらない手はありません。今回は「非標準駒数」の設定を各作品がどのように利用しているかに特に注目して解図・鑑賞してください。

〔ルール説明〕

【アンチキルケ】駒取りがあつたとき、駒取りを行った駒は駒取りのあつた地点から最も近い実戦初形の位置に戻る。

〔補足〕

- 1 成駒は成つたまま戻る。
- 2 戻り位置に駒があつたり、自玉に王手が掛かつたりするため、戻れない場合は戻らない。
- 3 駒取りの発生時、駒が戻るまでを1手と見なす。

4 金銀桂香（成駒も含む）が5筋で駒取りを行い、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。片方のみ戻れる場合は強制的にそちらに戻る。

【PWC】取られた駒は取つた駒が元あつた場所に復元する。

〔補足〕

- 1 二歩及び行き所の無い駒になる場合は、復元せずに相手の持駒になる。
- 2 復元時に成不成の選択は行えず、成駒は成つたままで復元する。

【スタイルメイト】王手は掛かつていないが、合法手のない状態

【強欲】攻方は駒を取る王手があれば、その手を選択しなければならぬ。受方は駒を取る王手回避手があれば、その手を選択しなければならぬ。なお、今回の「氾濫」は2名のゲスト参加をいただいています。前回と違い超難問はありませんので、解き易そうな問題から取り組んでみてください。

